



3月の花 ムスカリ

名の由来はギリシャ語の moschos(ムスク)であり、花は一見するとブドウの実のように見えることから、ブドウヒアシンスの別名を持つ。開花は3月初旬から4月末頃。花色は鮮やかな青紫色だが、近年、白色、コバルト色なども見られる。花弁はあまり開かない。

とうめい news

2025.3.1
Vol.283

〒243-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発行者:河野 昌史
編集責任者:佐藤 賢治
印刷:(有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

外来診療で想う事

総合診療科、外科・乳腺外科、化学療法科：
日野 浩司

TOPICS

今回は、私が行っている外来診療についてお話ししようと思います。現在私は3カ所で外来業務をしています。とうめい宮の里クリニックでは総合診療医として、とうめい厚木クリニックでは外科・乳腺外科医として、東名厚木病院では、化学療法医として、診療を行っています。

まず外科医が総合診療をなぜしているの？とお思いかもかもしれませんが、私たち以前の外科医は多くの地方病院に出向して、多種多様な領域の病気を担当していた歴史があります。一般外科はもちろん脳外科領域から、整形外科、形成外科、さらには臨床検査や画像診断まで行ってきました。どんな疾患が来ても、なんとか対応をする術を身に付けざるを得ない状況でした。

「以前の」と記しましたが、現在の医師は、後期研修医時代には専門医機構に属して専攻医として何らかの科の専門医を取得する状況です。それにより縦割り化が進み、外科が何でもする時代は終わったのだと思います。そのため様々な領域の病気に対応できるよう、どんな疾患でも取り扱う免許符として、日本病院総合診療医学会の認定医と指導医を取得しました。病院のなかで、マネジメントを行う上でも役立ち、総合診療医として診療を行っている状況です。

次に乳腺疾患の領域では、外科・乳腺外科として診療を行っています。どうして、外科と乳腺外科とならんで書いてあるのだろうと、思った方はいらっしゃるでしょうか。外科と乳腺外科の間にある“・”は私の中では強い思い入れがあるのです。乳腺外科だけの表示では、男性が受診しにくい事、さらには、乳腺だけでなく何でもご相談下さい、のメッセージも含まれています。

最後に化学療法外来は、抗がん剤治療を行っている方のみが、通院される場所のため、やはりデリケートなお話をする事も多く、慎重な外来となっています。ややもすれば、暗い外来になってしまいがちです。ただそんな雰囲気を経験する時には壊そうと軽口を言って、笑わせる場面も作ろうと思っていますが、時にやり過ぎてスタッフから白い眼を向けられることもあります(笑)。

外来では、どの患者さんも自分の診察は早く呼んで欲しいものです。そして診察室ではゆっくり話や診察をして欲しいのです。よく解ってはいるのですが、この相容れない2つをこなすのは、医師にとってすごく難しい事なのです。そこで、何とか出来ないかと私が気を付けていることは、時間が押して、焦って診療を行わなければならない時ほど、ゆっくり喋ることで。早口になればなるほど、患者さんはデリケートに反応しがちとなります。もう一つは、患者さんの目を見る事です。ずっと見つめる訳にはいきませんが、大切なここぞという時は、必ず患者さんに顔を向けることが大事と考えています。忙しい時ほど、電子カルテに目を向けがちとなり、この二つは重要と考えて診療を行っています。さらにこれに加えて、看護スタッフの患者さんへの温かい思いやりで、皆さんの心を癒してもらっています。

なるべく時間を守って、頑張る診療しますので、少し時間が遅れたとしても、優しい笑顔で診察室に入って来て頂ければ幸いです。それ以上の笑顔でお返しいたします。

